

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000683
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会
事業所名	グループホームみかわ
訪問調査日	平成 19 年 7 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 7 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	673000683		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームみかわ		
	山形県東田川郡三川町大字青山字箴元22-1 (電 話) 0235-68-1088		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	平成19年9月7日

## 【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 19 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人、非常勤 人、常勤換算 14 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	○新築／改築
建物構造	木造在来工法二階建て 造り 階建ての 階 ~ 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷 金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	64 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田内科医院 ・ 三川病院 ・ 谷家歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域住民との交流が盛んで、畑の作付けや草刈り、窓拭きなど積極的な手助けを受けたり、地区自治会の自主防災班、子供110番の連絡所、児童の遊び場など地域の一員としての役割を担い、相互に支援しあっています。  
口腔ケアや健康への影響を考慮した食物まで、一人ひとりの利用者に合わせた工夫から、利用者の表情も生き生きとしており、豊かな暮らしが伝わってくるホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	徘徊する利用者があるために、安全面への配慮から日中も玄関に鍵をかけていた点について、なぜ徘徊や妄想が強く出現するのかを、精神科のかかりつけ医や家族とも検討し、薬による治療と平行したケアを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各棟全職員で点検を行い、主任や管理者が意見をまとめており、また、前回評価の改善点は日々課題分析しながら、段階を追って改善することができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、活動報告、入退所状況、地域密着型サービス事業所としての取り組みが報告されている。また、脳トレーニングや計算ドリルの活用意見が出され、日々の活動にも活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時、運営推進会議や行事に家族が参加した際に、意見をもらうように働きかけており、ベッドサイドの鈴やチャイム、歩行器の購入など、家族の希望に添ったサービス向上に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区、育成会、文化祭などの学校行事に積極的に参加し、利用者の楽しみの一つになっている。また、地区自治会に加入し、地区の一員としての役割も担っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、事業所独自の理念として「地域の行事に参加し共に楽しみましょう」を掲げ、地域密着型サービスの展開に努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、ホール、事務所内に掲げ、毎日のミーティングで理念を共有し、地域育成会、老人会などの担当職員を決め、共同事業の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区、育成会、文化祭などの学校行事に積極的に参加し、利用者の楽しみの一つになっている。また、地区自治会に加入し、地区の一員としての役割も担っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各棟全職員で点検を行い、主任や管理者が意見をまとめており、また、前回評価の改善点は日々課題分析しながら、段階を追って改善することができた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、活動報告、入退所状況、地域密着型サービス事業所としての取り組みが報告されている。また、脳トレーニングや計算ドリルの活用の意見が出され、日々の活動にも活かしている。		

山形県 グループホームみかわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の福祉課や包括支援センターには利用者の家族関係、経済的な検討、生活保護の相談などに出向くことが多く、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会者には口頭で報告し、金銭出納帳のコピーは毎月送付している。また、ホーム便りの「輪和話通信」を2ヵ月ごとに発行し、顔写真入りの新職員紹介や利用者別に暮らしぶりや健康状態を細かく伝えている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時、運営推進会議や行事に家族が参加した際に、意見をもらうように働きかけており、ベッドサイドの鈴やチャイム、歩行器の購入など、家族の希望に添ったサービス向上に努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者にはチームで関わり情報の共有も図られているため、馴染みの職員が多く、異動によるダメージは少なく混乱は見られない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は毎月法人の研修会があり、職員自身の希望も尊重しながら、新任職員研修、高齢者福祉研修、事故防止セミナー、認知症専門研修などに参加できている。また、介護福祉士、ケアマネジャー、健康運動指導士、社会福祉主事などの資格取得のための職員への支援を進めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内の他の事業所職員と相互に交流し、研修会や事例検討などで地域密着型サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にホーム便り「輪和話通信」の題字を書いてもらうなど、理念の「お互いに支えあう、安らぎのある生活」を目指し、ありのままの生活から「いたわりの心」が生まれ、心が通じ合える関係ができている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は職員の親や祖父母と違って意向を聞き、本人の希望を汲み取る作業に力を入れている。また、利用開始直後はより丁寧な観察を行い、徘徊などの行動の理由も考慮しながら個別の対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で課題を分析し、本人の行動から意向を汲み取りながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月～6ヶ月ごと)に介護計画の見直しを行い、今以上にできそうなことを盛り込んだものに行っている。入院などの変化時は速やかに医療機関との検討会を行い、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医への受診は家族と相談しながら通院介助 を行っており、情報の共有も行われている。また、職員 の観察や協力医の往診により必要な支援ができてい る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	「重症化した場合の対応」に基づき、家族に説明し理解 を得ている。また、かかりつけ医、法人看護師、家族、 本人とも検討を重ね、適切な支援の方針が共有されて いる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	言葉かけや部屋への出入りも礼を逸さないように気を つけており、自宅に居るように過ごしやすい配慮をして いる。また、個人情報の漏洩がないように、全職員から 誓約書を取り、その徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一律な生活ではなく、以前の生活を尊重し「自分の ペースで生き生き暮らす」を目指し、本人や家族も満足 するように支援している。		

山形県 グループホームみかわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を入れた旬の献立を中心に、一緒に調理し、盛り付けし、配膳、片付けをしている。楽しい会話で、ご飯をよく噛んで飲み込むように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせ、入浴を楽しめるように配慮しており、薬用石鹸を用いた足浴は、水虫対策として喜ばれている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気の良い時は散歩、買い物、畑に出て過ごし、天気の悪い時は手芸、脳トレーニング、抒情歌、囲碁や将棋など利用者の特技や趣味を活かし、楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外の空気にふれることが五感刺激につながると考え、車椅子や歩行器を利用して活動の場が広がっている。また、夕食前の散歩を日課にしており、食欲増進とリハビリ面での効果を上げている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は施錠しないで、面会者や地域の人、子供達が自由に入出入りしている。また、外に出て行く気配の利用者には、花を眺めてからホームに戻ってくる支援も行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会の自主防災会組織に加入し、今年度は防災の日に炊き出しを担当することになっている。年に1回避難訓練を行い、防災意識を高め、災害時には住民の手助けや協力を依頼しまた、住民(高齢者)の避難場所として施設を提供することも提案している。		

山形県 グループホームみかわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の残量チェックや一日の水分量を記録し、食欲や飲み込み力にあわせて、ゼリー状にしたり、味付けや彩りで食が進むように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広々として清潔であり、居心地のよい生活の場となっている。また、手作りの壁飾り、写真、みんなで願い事を書いた七夕飾りがあり、季節感も感じ取れる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具や趣味の品が持ち込まれており、冬のコタツの使用など本人や家族とも相談しながら、その人らしい部屋作りがなされている。		